

Air Force Zero

TechDAS Air Force Zero デビュー

The Audio Salon

レビュー Michael Fremer

Hideaki Nishikawa を迎え The Audio Salon がイベントを開催した

リスナー衝撃の第一印象

先日サンタモニカの The Audio Salon で開催された、TechDAS Air Force Zero の発表会に私がかかなり懐疑的な気持ちで出かけたことを告白しよう。

巨大でハードな多層ブラッターシステムを使った大きな動きの鈍いターンテーブルでは、オーバーダンブでフォーカスが悪い音になるのは間違いないと私は考えていた。しかしその 2 日間、我々が聞いた音はそれとはかけ離れたものだった。ところで写真でブラッターの下のほうに見えるのは、反射ではない。これはブラッターのベース部分である。

40人程度集まった一般客、レビューワー、ゲストらが着席するとターンテーブルにかけられていた布がはずされ、マツシブなブラッターのターンテーブルが姿を現した。写真でみるよりはるかに実物のほうが魅力的だ。

そして業界のベテラン、設計者である TechDAS の Hideaki Nishikawa が究極の重量 771 ポンドのターンテーブルの説明をした。これはまだ開発中であって我々が聞いたのはプロトタイプである。何層にも積み重ねられたブラッターは音響的に”やっではいけないこと”のように見えるかもしれない。しかしステンレス、砲金、タングステンなどいろいろな切削加工されたブラッターには、エアチャンバーを内包してレコードをブラッター表面に吸着するためのバキュームが作動すると、ブラッターもバキュームで互いに密着し、完全に 1 枚のマツシブなブラッター同然の状態となってエアベアリングの上に浮上するのだ。

改良した Papst モーターはもともと Studer のプロ用テープデッキのために設計されたものだが、エアベアリング方式である。TechDAS は世界中の新古品 Papst モーターを 40 個かき集めたので、Zero は全世界で 40 台のみの限定生産となる。\$400,000 以上という価格のこんな製品を買う人はほとんどいないと思うだろうが、少なくとも 10 台はすでに事前予約されているそうだ。

TechDAS

Air Force Zero

The Audio Salon の Maier Shadi は以前倉庫だった場所に新しいショールームを完成したばかりだった。これまで世界中で私が聞いたことのある店舗展示スペースとしては最高の音響レベルだ。Wilson Audio の WAMM Master Chronosonic スピーカーとサブウーファー、Dan D'Agostino Master Systems の Momentum M400 モノブロック、HD プリアンプ、フォノアンプというとてもいいパワーとフルレンジを、余裕を持って見せつけられる広さが十分にあった。

Mr. Nishikawa がかけた最初のレコードから私がかけた最後のレコードまで、最高のレコード再生に聴衆は酔いしれた。それまでに誰 1 人聞いたことがない、これに近いものでさえ聞いたことがないものだったと全員が同感だった。素晴らしい TechDAS Air Force One Premium、や私の Continuum Audio Labs Caliburn も含め、私が今まで聞いたどのターンテーブルをも完全に撃破した。これまでどんなターンテーブルからも聞いたことのないほどのブラックなバックグラウンドの静寂さといい、全く足元にも及ばないのである。あまりにも静かでシステムがミュートになったのではないかと何度も思ったが、次の瞬間スピーカーから高い SPL で音楽があふれ出てくる。

Graham Elite/TechDAS カートリッジ、SAT CF-12/Lyra Atlas SL の 2 種を取り付けていたので、リスナーは Graham/TechDAS のスペース感と暖かみかマスターテープのようなトランジェントスピードと透明性の SAT/Lyra の好きな方を選ぶことができただろう。どちらも 3 次元的で、バランスのとれた音色、見事なダイナミクスのある音で全員がどちらも楽しんだ。このシステムはまるで天の啓示のように楽々と自然なのだ。Masterpieces by Ellington のような聞きなれたレコードでも隠されていた味わいや音のニュアンスが聞けるので”まさにそこにいる”臨場感に聴衆全員がぞくぞくするような感動を味わった。

私はレビューサンプルが可能かどうかあえて聞かなかったが、2 晩目の終わりに Mr. Nishikawa から Zero を私の自宅で聞きたいかと聞かれた。たぶん夏の終わりが初秋頃になると期待している。このマツシブなターンテーブルは私のラックから”目と鼻の先に”なってしまうだろうが、部屋に設置することは可能だと思う。眠れない夜が何か月も続くと思う。